



六蹴会 会長

## 鈴木 昭

六甲サッカー部が創立されて50年になりました。今、ここに50年史を発刊できることは、誠に喜ばしいことと思います。芸術家の一生をじっくり観察する時、その人の年代とともに、その作品を通して、考え方や生き方が大きく変わっていくのを我々が感じ取ることができるように、六甲サッカー部も50年の歩みの中で、その背景の変化とともに、いろんな点で変わってきたことを記念誌から読み取ることができます。創部当時のサッカー部、そしてその後のサッカーに対する取り組み方の移り変わりは、記念誌に面白く書かれています。しかし、その中でも故フィルケルさんの存在は非常に大きく、深い意味を持って、いつまでも変わりなく語り継がれていくことでしょう。我々が六甲学院で6年間の授業を通して教えられたことをはるかに超えた人間教育を、教職にはなかったフィルケルさんが我々に教えてくれました。フィルケルさんはサッカーを理屈

なしに、とにかく好きでした。このことは我々皆も基本的に同じだったと思います。ですからサッカーについては、あまり難しく語るのは本意ではないのです。しかし先に述べたフィルケルさんの人間教育については、いささか触れておく必要があると思います。今、日本ではサッカーが特にブームになろうとしています。哲学者ヘーゲルによれば、究極の自由は歴史の終わりを意味し人類の破滅へと進む、とあります。エイズ問題、麻薬問題、今、世界の冷戦構造が終わり、自由が突出して強調され、その反動として、民族の対立と地域の秩序の破壊が起こってきているのです。自由、平等、友愛のフランス革命の原点を、協調という形で主に構成されているスポーツがサッカーなのです。個人主義的受験教育の欠点を補完するという点でも、中・高教育において優れた魅力あるスポーツだと言ってもよいと思います。故フィルケルさんが試合や練習、合宿、遠征などの

時に、下手な日本語ではありましたが、体全体で表現していた忠告は、常に、このことであったのです。ここに改めて感謝の気持ちと、御冥福をお祈りしたいと思います。

六甲サッカー部の現役の諸君、そして将来六甲サッカー部に入ってくるであろう子供たちをお願いしたいことは、記念誌が、過去の事象の単なる記録の集積ではなく、未来の六甲サッカー部発展のための啓示を含んでいることを読み取って欲しいのです。そして六甲サッカー部が、いつまでも六蹴会OBの心の故郷であり続けてくれることを願ってやみません。

終わりにになりましたが、本誌の発刊にあたり、貴重な時間を割いて努力をして頂きました佃先生、市川先生、その他多くの関係者の方々に、心から謝意を表し、序文といたします。

平成5年2月